

会報

熊本県日中協会

令和3年
4月発行

《発行》
熊本県日中協会
会長 小野 友道

《事務局》
〒860-0846
熊本市中央区城東町4-2
熊本ホテルキャスル2F

Tel 096-356-4847
Fax 096-325-2829

通刊108号

～さらなる友好の絆を～

ピーケイさん最優秀賞 留学生作文コンクール 23人を表彰

熊本県日中協会は3月5日（金）午後2時半から、熊本市国際交流会館での式には、入賞者や学校関係者ら約40名が参加した。コンクールの表彰式を行いました。

このコンクールはコロナ禍で年間行事が大幅に制限される中、在熊の留学生を激励するために実施したものです。

表彰式では司会担当の鬼海洋一理事の開会の辞、小野友道会長の主催者挨拶、審査員紹介に続いて表彰を行い、入賞された皆さんに賞状と副賞を贈りました。

副賞は最優秀賞が賞金3万円、優秀賞と熊本県日中協会賞が賞金1万円。少しでも留学生活の足しになる

表彰式後は笑顔で記念撮影。この時だけはマスクを外して行いました



最優秀賞のピーケイヒクラムさん。とても緊張しながらも、受賞者を代表して挨拶してくれました



小野会長（右）から賞状を受け取る王賣さん

ようにと佳作賞は商品カード3千円分、努力賞は商品カード2千円分としました。

コロナ対策万全に

コロナの感染予防対策のため、マスク着用と手指消毒はもちろんのこと、窓や出入口のドアを開け放ち、換気にも注意を払って実施。人数制限のため、関係者のみでの開催となりましたが、各学校の留学生担当者や協会関係者で盛大な拍手を送りました。

表彰後、審査員を代表して西川盛雄熊本大学名誉教授が講評を述べ、受賞者を代表して最優秀賞を受賞したピーケイヒクラムさんが挨拶。最後に記念撮影を行いました。

留学生のコンクール応募の動機は、「留学生活の思い出になる」、「チャレンジしたい」、「自分の気持ちを伝えたかった」などが多くありました。入賞の感想としては、受賞できて大きな励みになった（王賣さん）、受賞をきっかけに日本語の勉強をさらに励みたい（李天然さん）、他の留学生の作文を読んでコロナに負けず頑張っている姿が見えた（欧静寧さん）など。入選されなかった方からも、機会があればまた挑戦したいとのコメントが寄せられました。



アハメドファイサルさんはお国（バングラデシュ）の衣装で参加。お祈りするときに着る服だそつです

初のコンクール開催 ～全ての国の留学生対象～

熊本県留学生日本語作文コンクールは、コロナ禍でも行うことができる、留学生を励ます事業として初めて実施しました。

熊本県日中協会では、毎年、中国人留学生を招待しての春節祝賀会や日中の学生の交流会などの事業を行ってきましたが、令和2年度



主催者挨拶をする小野友道会長

私たちが力もろう 小野会長 あいさつ

初めは留学生の皆さんがこのコンクールに関心を持ってくれないのではないかと心配していたが、留学生生活や国際的な視点などが書かれた、多くの作品が集まりました。

銘を受け、真摯な留学生生活が目に見えてきました。コロナパンデミックの中で、留学生の皆さんから私たちが力をいただきました。コロナに打ち勝ち、皆さんと交流できる日を楽しみにしています。

は何もかもが中止。作文コンクールならば書類やメールのやり取りで行えます。

当協会は、普段は中国との交流活動を行っています。が、コロナで大変な思いをしているのはどの国の留学生も同じとして、募集対象を全ての国からの留学生としたところ、中国、韓国、ネパール、インドネシア、バングラデシュ、ベトナム

と多くの国の留学生から作品が集まりました。

協会担当理事による予備審査を通過した作品を最終



【最優秀者の喜びの声】

ピーケイ・ピクラムさん(20) ネパール九州測量専門学校日本語科
作文は2週間ほどかけて書きました。留学して思うことをまとめること

最終審査員の西川盛雄先生(左)と吉村隆之先生



され、最優秀賞1名、優秀賞3名、佳作賞13名、努力賞5名が選ばれました。

日本語能力の向上に役立てて 西川先生ノ講評

「言語能力」とは、音声や文字を発することが出来る能力だけではなく、その表現が文法や敬語などの社会的な約束などとの関係で妥当性があるかどうかを自分でチェックすることの出来る能力のことです。今後の皆さんの日本語能力の向上に役立ててください。

は日本語の勉強になると思っただけで応募しました。日本に来る動機や来日してからのいろいろな経験。楽しいことや文化の違いもありました。

学んだ技術を国の発展に生かしたい

でびっくりしたことが、未来の夢も記しました。コロナ禍でアルバイトが減り生活に困った中で、周囲に助けってもらったこと

入賞者の皆さんを前に、熱心に応募作品の講評を語る西川盛雄先生



木建築を学んで、10年ぐらい日本で働きたいです。日本は自然災害が多い国ですが、その度に多くの技術者の力で復旧復興し発展してきました。(中国とインドに挟まれ山に囲まれた)ネパールも災害が多い国なので、帰国したらその技術やノウハウを国の発展のために生かしたいです。

記念の「作品集」5月号

作文コンクールの入賞作品23編を収めた作品集を350部作成し、入賞者や協会員、関係者らに配布しました。

応募してくれた留学生の良い思い出の品になり、また留学生の現状や思いを皆

様に広く知らしめる良い機会になると作成しました。



冊子には、蒲島郁夫熊本県知事と大西一史熊本市長に祝辞をご寄稿いただき、審査員の講評も掲載しています。掲載の作品は、応募時の原文のまま。多少の日本語の言い回しの間違いも、返って一生懸命文章を作ってくれた留学生の姿が目につかなくて。外国の方の文章とは思えないほど表現力の高い作品や、まるで

小説のような物もあり、読み応えたっぷりです。会員の皆様方には既にご送付しておりますので、是非ご一読ください。事務局に予部がまだ少しありますので、ご友人に勧めたいなど、ご希望の方は協会事務局までお問い合わせください。

協会事務局

☎ 356-4847

入賞者一覧（敬称略）

- 最優秀賞1名
ピーケイ ビクラム 九州測量専門学校日本語科（ネパール）
- 優秀賞3名
アハメド ファイサル 崇城大学情報学部（バングラデシュ）
王 賽 熊本学園大学大学院商学研究科（広西壮族自治区）
バルトラ プラバス 専門学校湖東カレッジ日本語科（ネパール）
- 熊本県日中協会賞1名
邱 于娜 熊本大学文学部（広東省）
- 佳作賞13名
欧 静寧 熊本大学大学院自然科学教育部（福建省）
王 政凱 熊本YMCA学院日本語科（台湾）
郭 天晴 熊本大学大学院社会文化科学教育部（江蘇省）
何 慕 熊本大学大学院保健教育部（安徽省）
カン ソユン 熊本YMCA学院日本語科（韓国）
シャルマ ゴパル 崇城大学大学院工学研究科（ネパール）
ジョン ハチャン 熊本YMCA学院日本語科（韓国）
宋 家宝 熊本大学工学部情報電気工学科（河南省）
タジプリヤ ラミタ 専門学校湖東カレッジ日本語科（ネパール）
張 博文 熊本大学大学院社会文化科学教育部（山東省）
陳 碧然 熊本大学大学院社会文化科学教育部（河北省）
李 筱璇 熊本YMCA学院日本語科（遼寧省）
劉 若正 熊本YMCA学院日本語科（四川省）
- 努力賞5名
アルビ スルヤ サトリヤ リドワン
熊本大学大学院自然科学教育部（インドネシア）
汪 翔 熊本YMCA学院日本語科（安徽省）
王 晟旭 熊本県立大学日本文学部（河北省）
薛 富肇 熊本大学大学院社会文化科学教育部（福建省）
李 天然 熊本大学大学院社会文化科学教育部（雲南省）

《最終審査員》

- 審査委員長 小野友道（熊本県日中協会会長）
- 審査員 西川盛雄（熊本大学名誉教授）
- 審査員 吉村隆之（くまもと漱石倶楽部会長）

ご協力いただいた皆様
ありがとうございました

コンクールを実施するにあたり、会員や関係者に広く賛助金を募ったところ、多くの方から協力をいただきました。誠にありがとうございました。ご協力者は次の方々です。

賛助金ご提供の方々

熊本大学、熊本医療ガス株式会社、熊本華僑華人総会、JA熊本中央会、社会医療法人寿量会、創価学会、崇城大学、東アジア友好熊本県議会議員連盟、医療法人伊東会、武藤眼科・大久保内科、株式会社あんしんのお. Ltd.、社会医療法人

稲穂会、株式会社エンタープライズ暖、おせきこども園、小野友道、柏木明、河野文夫、河村邦比兎、株式会社木村、税理士法人近代経営、株式会社熊本放送、熊本学園大学、熊本県私立中学校高等学校協会、熊本県歯科医師会、熊本市議会、熊本旅行株式会社、光進商事株式会社、後藤大次郎（ホテルセキア）、小山和作、佐藤義興、社会福祉法人慈永会、尚綱学園、株式会社杉養蜂園、田尻善裕、立山田生、東海大学九州キャンパス、野田毅、林康治、二子石信介、三角海運株式会社、未来税務会計事務所、北里敏朗、熊本ホテルキャッスル、熊本バレエ研究所、小早川稔子、佐藤征紀、重光産業株式会社、小杉直、松本崇希

賛助金ご提供の皆さま

熊本県観光連盟、徐秋美（順不同・敬称略）

張宝復老先生恭賀百岁

張宝復さん100才

中国帰国者『金メダル』贈る

家族最高齢



メダルをプレゼントされて満面の笑みを浮かべる張宝復さん

熊本県内の中国帰国者家族最高齢の張宝復さんが2月14日、満百歳の誕生日を迎え、熊本県中国残留孤児等対策協議会（中対協）から金メダルと折り紙で作ったチューリップの花かごが贈られました。

メダルには中国語で「百才おめでとう」と刻印、花は中国帰国者の皆さんの手作りです。コロナ禍で直接お渡しすることができなかつたため、長女の張秀雲さんに届けてもらいました。

張宝復さんは遼寧省瀋陽市生まれ、中国で残留邦人である吉永六枝（故人）さんと結婚、6人の子供に恵まれました。

1972年の日中国交正常化後、残留邦人の帰国事業が始まり、吉永さんが息子2人を連れて先に日本へ帰国、張さんは中国で定年を迎えた1983年来日しました。

その後、他の子ども世帯



自宅（熊本市菅住宅）で誕生日のお祝いに駆けつけた長女の張秀雲さん（右）、孫の白坂晶子さん（左）とハチリ

熊本県日中協会は中対協から業務委託を受けており、これらの活動を通じて中国帰国者を支援しています。

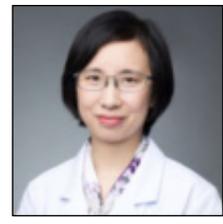
も来日し、現在孫は10人、ひ孫は12人。全員熊本に住んでいます。

「日本語もわからないし、初めは大変だったけれど今は幸せ。日本は医療機関が充実していて病院は親切だ。日本にいなかったら百歳まで生きられなかったかも」と張宝復さん。

どうぞいつまでもお元気で長生きしてくださいね。

オンライン診療に参画

高野理事ら 国際医療相談も



丁曙晴先生

南京市中医医院の丁曙晴副教授が、インターネットを活用したクラウド医院を立ち上げ、医療法人高野会の高野正博会長（熊本県日中協会理事）も参画することになりました。

このクラウド医院は、世界の関連する分野の様々な専門家と患者、医学生などがネット上でつながり、総



丁曙晴先生企画のオンライン診療の説明資料から

合的に診断や治療方針などを思考し実践していかうという取り組みです。

丁曙晴氏は現在アメリカ在住、世界でも有名な大腸肛門機能専門医で、南京市中医医院と古くから医療交流を行っている高野先生とは旧知の仲。コロナ禍で医療の世界でもネットの活用が推進され、国際的医療相談なども始める予定です。



当協会の訪中団（2011）でも南京市中医医院の皆さんと交流。前列右から2番目が高野正博先生



縁あってこの度、県日中協会のお手伝いをする事になりました。よろしくお願いたします。▼昨年3月に熊本日日新聞社を定年退職し引き続き専門委員として仕事にあたっています。果たしてどれだけ力になれるか分かりませんが、前任の小中先輩や事務局の青木さんに助けてもらいながら頑張りたいと思います▼新聞社時代は編集局が長く、社会部や政経部の取材、編集本部で新聞づくりに携わりました。御船支局や玉名総局では「恐竜」「ラーメン」によるまちおこしにあり、後年は秘書室やデジタル部門に身を置きました。とにかく体を動かすのは好きで、何でも好奇心は旺盛な方です▼つたない新聞記者の経験からすると、「どんな難題もそこでもがいていければ何とかなる」というのが信条です。これを機にまずはラジオ講座のテキストを買って勉強を始めたいと思っています。

（機関紙編集委員 木村圭一郎）